

## プログラム・ノート

飯森豊水

### シューベルト：歌曲集『美しい水車屋の娘』 D. 795

フランツ・シューベルト(1797～1828)は生涯に約600曲の歌曲を作曲した。早くも1814年の「糸を紡ぐグレートヒェン」で、劇的な詩を音化した旋律と描写的なピアノ声部を先鋭な感性で結びつけ、歌曲の歴史に新時代を切り拓いた。その翌年には「野ばら」や「魔王」を含む約140曲を一気に作曲する。彼はすでに完成された歌曲作曲家であった。

1823年の歌曲集『美しい水車屋の娘』の詩は、ほぼ同世代の詩人ヴィルヘルム・ミュラー(1794～1827)による。1821年発刊の『旅するホルン吹きが遺した紙に記された77の詩』には「冬に読むための」とあり、冒頭に「美しい水車屋の娘」を収録していた。ただし歌曲集では、詩集からプロローグ、エピローグおよび3篇の詩を除いた20篇に付曲しているため、物語の一貫性が犠牲になる部分もある。

大意は以下の通り。「青年は水車動力の製粉職人(水車屋)になるために修業の旅に出る。水車小屋を見つけて働き始め、親方の娘に恋心を抱く。娘と心の通うこともあったが、娘はやがて狩人に心を奪われる。捨てられた青年は絶望して入水する。」

詩と音楽が一体となったこの歌曲集の峻烈な表出力の背後には、劇的音楽作品における不遇、当時のウィーンの政治的状況、友人たちに依存した生活の閉塞感、不治の病とされた梅毒による苦痛等の影響があるだろう。

### ハイドン：ピアノ三重奏曲第31番 変ホ短調 Hob. XV:31

鍵盤楽器、ヴァイオリン、チェロによる鍵盤楽器(ピアノ)三重奏曲を、ヨーゼフ・ハイドン(1732～1809)はほぼ生涯に亘って40曲ほど作曲した。この間、鍵盤楽器はチェンバロからフォルテピアノに移行したが、一貫して三重奏の中心にあり、ヴァイオリンは装飾的、チェロは鍵盤奏者の左手(低音声部)に重なることが多かった。ハイドンはこの三重奏曲を、当初は生徒の教育用に、国際的な名声が高まった1780年代以降は素人愛好家の娯楽用に作っていたようだ。

第31番 変ホ短調は、1795年にイギリスで作曲している。ウィーンの代表的女流ピアノ奏者であるマクダレーナ・フォン・クルツバック(1767～1845)に捧げられた。フラット記号6つの変ホ短調という調性とその暗鬱な響きは異例で、またこの時期に2楽章構成の三重奏曲も例外的だ。第1楽章はロンド形式と変奏曲形式を融合し、同主長調の第2楽章では弾むようなピアノに乗せて、弦楽器とともに暗鬱な雰囲気をもたらし、それを払拭する。

## ハイドン 編曲：『スコットランドとウェールズの民謡歌曲集』より

イギリス滞在中の1791年頃、ハイドンはスコットランド出身の出版業者ウィリアム・ネイピア(1740頃～1812)から、彼の故郷の民謡100曲の編曲を依頼される。18世紀中にイギリス、特にスコットランドでは民謡への関心が高まり、器楽あるいは声楽の芸術音楽として尊重されていた。民謡の大半は作曲者不詳であり、歌詞も一定でなかった。ハイドンは声楽、ヴァイオリン、通奏低音のために無償で編曲し、ネイピアの窮状を救った。

ネイピアと同郷の出版業者ジョージ・トムソン(1757～1851)もまた民謡集を出版していたが、彼には拘りがあった。満足できない詩は取り替えさせた。4年間で100篇以上の詩を提供した詩人もいたほどだ。編曲者にはフォルテピアノ、ヴァイオリン、チェロの編成で、省略なく記譜して前奏や後奏もつけるよう求めた。質の向上のためにイニャース・プレイエル(1757～1831)、レオポルト・アントン・コツェルフ(コジェルフ)(1747～1818)と大陸の作曲家にも依頼した。この2人との関係がこじれたため、1799年、トムソンはハイドンに好条件で編曲を依頼している。ハイドンは1804年までにウェールズ民謡やアイルランド民謡をも含めて合計208曲の編曲を提供した。(トムソンには未出版の編曲があり、21世紀初頭のヨーゼフ・ハイドン全集でようやく全曲が出版された。)

トムソンは、原則としてハイドンに詩のない楽譜を送付して、完成した編曲にふさわしい詩を合わせた。従って編曲は歌詞の一語一句に呼応するわけではないが、ハイドンの編曲には民謡への温かな共感が底流にあって、各曲に創作歌曲のような明確な個性を与えている。

当時のハイドンはオラトリオやミサ曲などの大曲を控えていたことから、編曲の一部は弟子のジギスメント・ノイコム(1778～1858)らに委ねている。今回の演奏会ではトムソン用の編曲から6曲が演奏されるが、そのうち「コリンの宝物 Cro Challin」はノイコムの編曲になる。ハイドンは出版業者ウィリアム・ホワイト(1771～1858)にも編曲を提供し、結局、1804年までに400曲を超えるイギリス民謡を編曲した。

(いいもり とよみ・音楽学)